

D
1076

逍遙文庫
文庫 6
2228



一筆庵戲作
溪齋英泉画



善惡道中記

人間一生獨案内

頂恩堂殿

善惡道中記序

振古の聖賢ハ世を友善ニ後生迄を憐レヨハ善
悪邪正の道を説をいづるは世話と云々勿れ獨
慎知を守る者ハ德行を樂ミ貧富の際ハ惑ラズ
して吉凶を天ハ儘ニ其ハ分を量るハ是を悟ルハ惡
曼を知命の達者と云衆人多クハ是を悟ルハ惡
人奸富の榮ハ誇リ善人多クハ貧ハ困窮ニ徳を
失ふ者を見てハ幸と不幸の地を換ル天命の

理を通曉さば一に道不迷るを案内の五と教諭の便とにあり。書籍の路の標あり。墨翟と云人の岐道を見よ。悲しと泣くも迷ん事を思ふ。十善街道三悪道右欽左欽彼方此方問ざる時ハ必迷ふ。惑ふハ道不闇きを故あり。克本善の道を尋て巡り遠くといふ。名聞利慾の捷徑。不入と則行路難。山もあはば川もあはば人生の半腹不在と云。抑道の善悪も

知る。只其理を以て押とまは公道人情両なり。全き夏ハ為事難。人情全けまは公道を欽。公道全れば人情を欽。各道に達する所と情不通る所。不儘して其性的と天命のをも。智者仁人の適を。自其道に適く。倘性夏を知者。盜跖が百年の壽ありとも。短くと顔子が三十二年の天も長くと云ん。飲鶴の千歳ハ猶短く。蟪蛄の一時の期長くと言ん。只足夏を知る時ハ貧しくなれども富くが如く。足

事を知らざる時を富と心も貧しき如し。此兩
岐を悟らざれば浮世の旅に往悩む歩行あらぬ
徑を讀文選小行路の詩にり。人生天地の間百年
孰能要せん。頰ごと石を敵火の如し。と長い浮世も
短の命往り先陰還るも月日仇小遇るを惜気
も無く暮るる遺感あはるばや人間の一生八腐
たる長草の如く。枵底の澤庵大根のおと。後
前をてを正味ハ僅五十年の内外を出る

喜怒哀樂有り。寧ろ費た月日を集り。笑
て暮るる日を稀なり。是を思へ一時の懈怠を
毛毳を脱ぎ。嬰童克愛小用心して聖賢道
不往方の本海道に赴き。務る教をばはる
者無。必ぞ良民とあらん。寧ろ驛路の道伴
を撰んより。獨案内に勸善懲惡の一端
ともならん。欲と善惡道中記と。

題を事志りあり

天保十四年歲在癸卯
秋閏月稿成同十五年
新春發兌

江戸楓川之市隱

一筆茶主人題



原本善惡道中記の飛雄亭の著述也大小世小行と云々宝曆六年丙子の春の板の繪番と小冊と合見と云うは緒々発市也其後天明寛政の比に至り桃栗山人の板發賣の初名なり大通獨案内と題して飛雄亭の作意不似は繪番と冊子と合見と云ふは戲作ありまゝ一山東京傳戲作を悟道獨案内といふも是本の草子小基き一もの之雙效好先哲の妙案と云ふはと云ふも星霜うつらうつら流行當時の人情のある事少くは今將其趣向より新戲作せし拙著也

人間一生 善惡道中記

發端

一筆茶戲作

爰小拙き秀筆を採て旅の耻と俱小書拾ふ也人間一生浮世の旅日記四季の國境小十二月の宿次あり初春の門松二里塚の誓一期の榮枯得失浮沈八名別旧跡の如く人生僅五十里の釋路と下場の控ハ定れども四十周五重の知命老の坂道小登り下りの難所係り古末稀ある七十の峠を越へ六定宿の泊りも近く先達の播行駒の奔馬極尻生行六番よりも早花脚古郷の遠世活賣覺て後生大事と懸ども金も軟し小命小惜く六日限の便りさ並便り事頼まゝの死八十の賀漫を行ぬ老體の浮世小捨れ非と見し壽命ありても思ふ事あるわが是も短きもの三指を腐て暮らさ長き月日の早くも立て姓を傳せども止るもなかり暇見今日の間

とある野望の川の水絶た
 流る道ものいそ夜を捨た
 夫如きより先臨小園守も
 むなれば形をあらたぬ
 事のし馬が小のよびま
 場中も懇せき後上り老の道
 中仕油丸を絶を性来をすうぐれく
 ま小油丸あまなれば道一竿の口液
 同を湯小室に雷の旅行をまよ
 運き小似れども雲助を産え
 早くごろ附先船をゆてまき
 る匹匹を修る雨も他生の傍旅ハ
 道つれ世情唯小報樹病あり山出
 の木俣海り小白日鬼の苦勞あられば



川苗小路用をよみて一布子を旅終ふ
 名々の患あり若の時の梅橋より老の
 宿眼まて風雨霜雪を凌ぐ性ハ的の
 遠の道きてもまよひ況や多福幸
 不幸運を天小供して梅廻夜報
 の世國旅行者只世の旅の適度
 身の上の関着助々の了士頃とた小
 喧しく秋踏の鈴小の約ハ形く
 とも胸の場綱ハ延まへる浮世を
 流る川裁小劫吾懲悪の浅瀬を
 諭一三世因果を引船中親
 面の理を復く只人生一朝の旅人
 小舟街道一教の捷徑中正直の
 既小俣より三度笠を換ちらふもいづ



真真小もり 質素儉約の吹申 合時をまよひ
 旅のつれの長人を案内して遠慮のつよさを
 杖うて油断なく道をやりて往者六
 正統山安樂寺へつづくと云ふは
 世小いふ士郎殿も乳人六人の悪
 きこといふあつて油断のあつて
 油断ありと云ふ小人を殺させ得
 ても墮させまじき小油断なく船次人を
 のせて船の渡らんこと小油断せぬ乳人六
 頑是も初見の通り怪我させまじき
 する小油断なくまじき目ま
 するされぬ油断をえり後あり
 古語ゆもゆえんハ大款とまて
 家を守る中火の元小油断なく



士ハ初小油断なく農人の耕働
 中えんなく職人の持小油断なく
 商人の渡世小油断なく番人の盗人の
 首小油断なく元路小油断なく
 首小油断なく小油断なく小油断なく
 車のゆえんなく前ハ猫と鮎小
 油断なくと猫ハ大と魚つり小
 油断なく大ハ盗賊と低層むら小
 小油断なく世は雀ハ多き小油断
 なく持ハ多小油断なく
 歎さ小油断なく
 小油断なく油断なく
 守る小油断なく
 遠慮をやる小



五兩のち定めお場はあれども
 常小袋小入を儲をよらり
 さねぬやう小袋のべ一非花の
 密更不七更或分の首代は堪忍
 の半減を坊へ倍へくは罪を
 託る定とあり浮世を三分并ごと
 安賣ふまる者何れは春宵一刻小
 千金の僕と高なる雅人あり文
 字少千金の座及お供へ古とより
 常小油断と堪忍とを守りお小意
 しくまら所を勢く等保ゆる人か世
 翻をまひて子孫の栄えをまひて七
 るるを惜まほはん義をまひて冷涙と
 ろもてを惜ま百姓の豊饒をまひて

不化あん子を信を商人ハ
 金まありを主の損る子を
 信するハ荷を負てを主の腹
 左枝を打るを信三牛の耕他の助と
 の子てを主の黒圃をりしを
 工を信大門を守てを主の喰付
 工を信猫ハ氣を主を主の糞糞糞
 するを信信ハ付を告を主の祝儀と
 ろんてを信馬ハ鞍馬を信てを主
 たりてを信あしを信てを信は是會
 衆とのまを主とするを信はしめてや
 世の中の人各五常の道を守るを主
 たりて其物を信ハ聖人の教りて
 よの道中祀の大意あり



五兩のち定めお場はあれども
 常小袋小入を儲をよらり
 さねぬやう小袋のべ一非花の
 密更不七更或分の首代は堪忍
 の半減を坊へ倍へくは罪を
 託る定とあり浮世を三分并ごと
 安賣ふまる者何れは春宵一刻小
 千金の僕と高なる雅人あり文
 字少千金の座及お供へ古とより
 常小油断と堪忍とを守りお小意
 しくまら所を勢く等保ゆる人か世
 翻をまひて子孫の栄えをまひて七
 るるを惜まほはん義をまひて冷涙と
 ろもてを惜ま百姓の豊饒をまひて





○いぶきりんまゑ
まろきものころり
すゑあり

まん木

天の宮
まろきものころり
すゑあり

三ツの松

このへん
まろきものころり
すゑあり
三ツの松
まろきものころり
すゑあり
まろきものころり
すゑあり

ぶつ門



○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

長明の滝

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

三ツの松

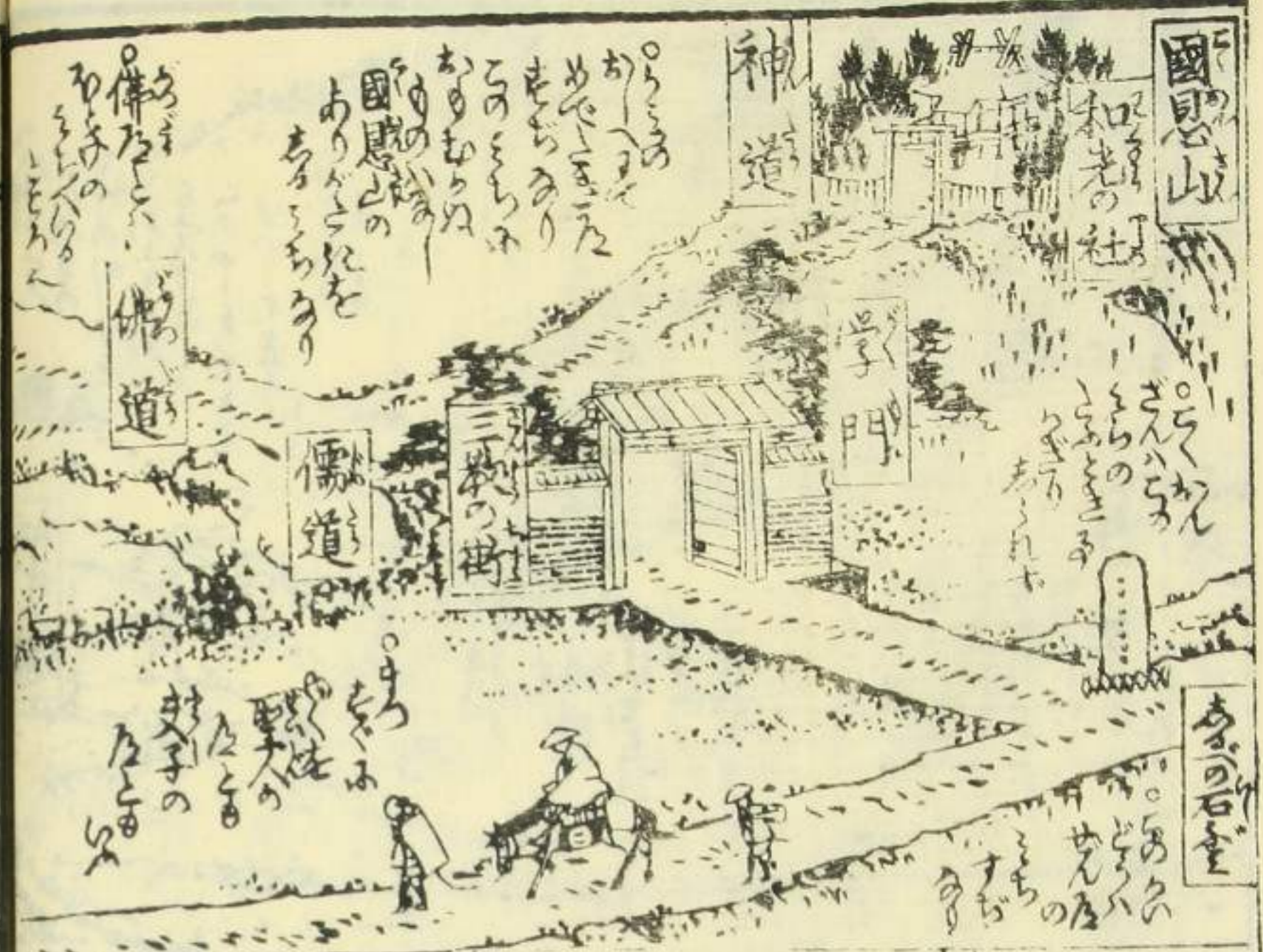
三ツの松

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

のまろきものころり
すゑあり

三ツの松

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり



○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

佛道

佛道

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

神道

神道

学門

学門

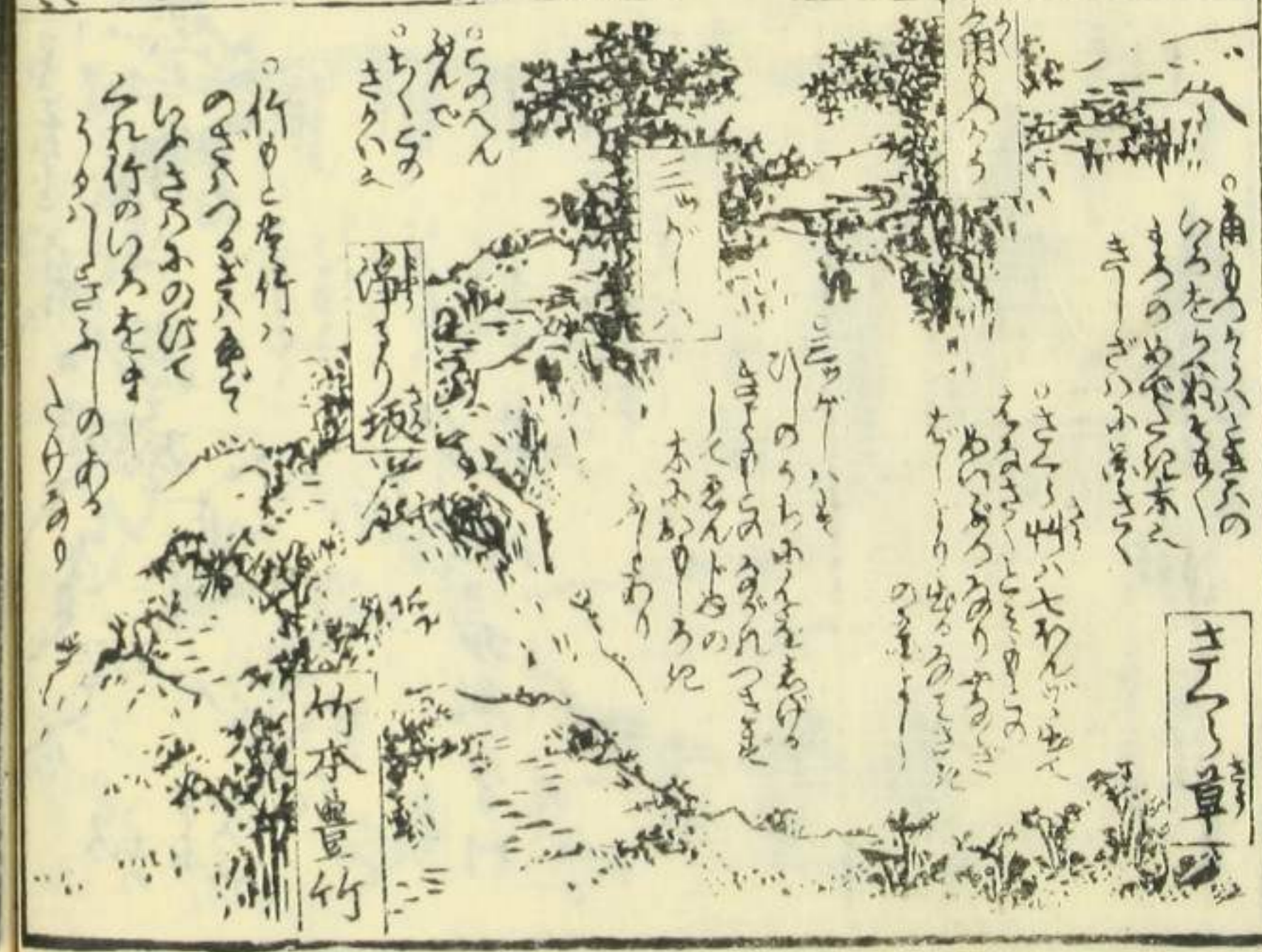
○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

國恩山

國恩山

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり



○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

竹本豊竹

竹本豊竹

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

三ツの松

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

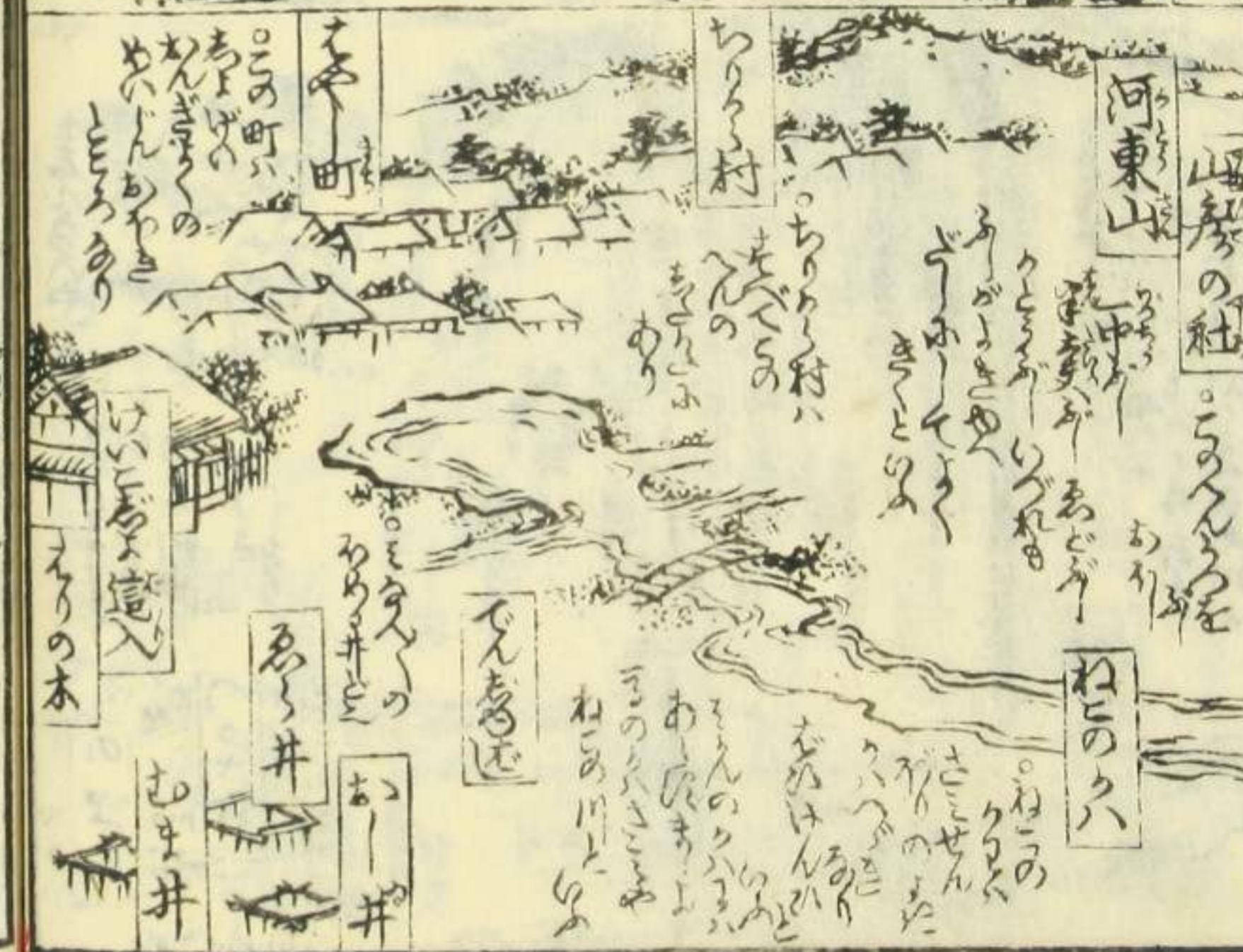
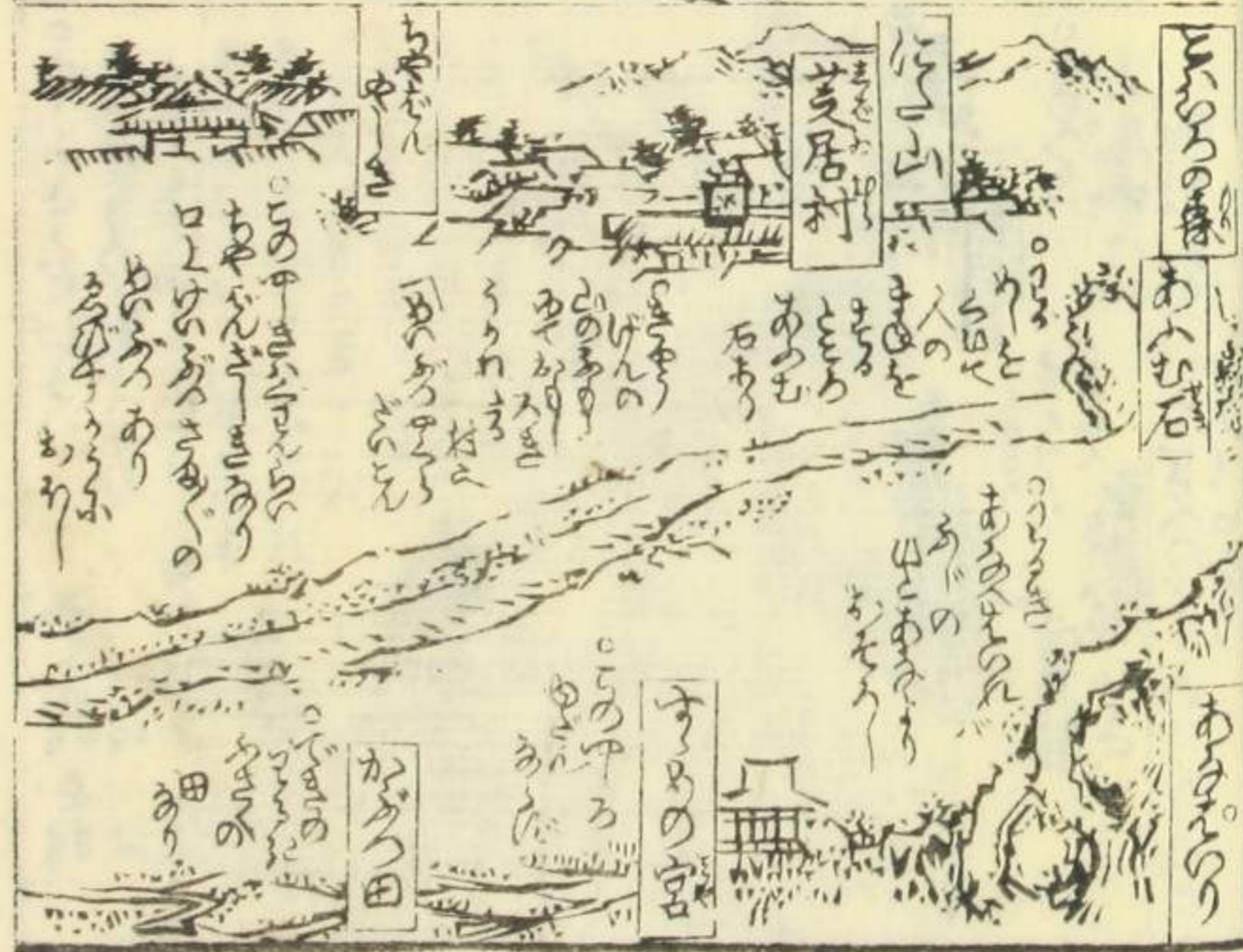
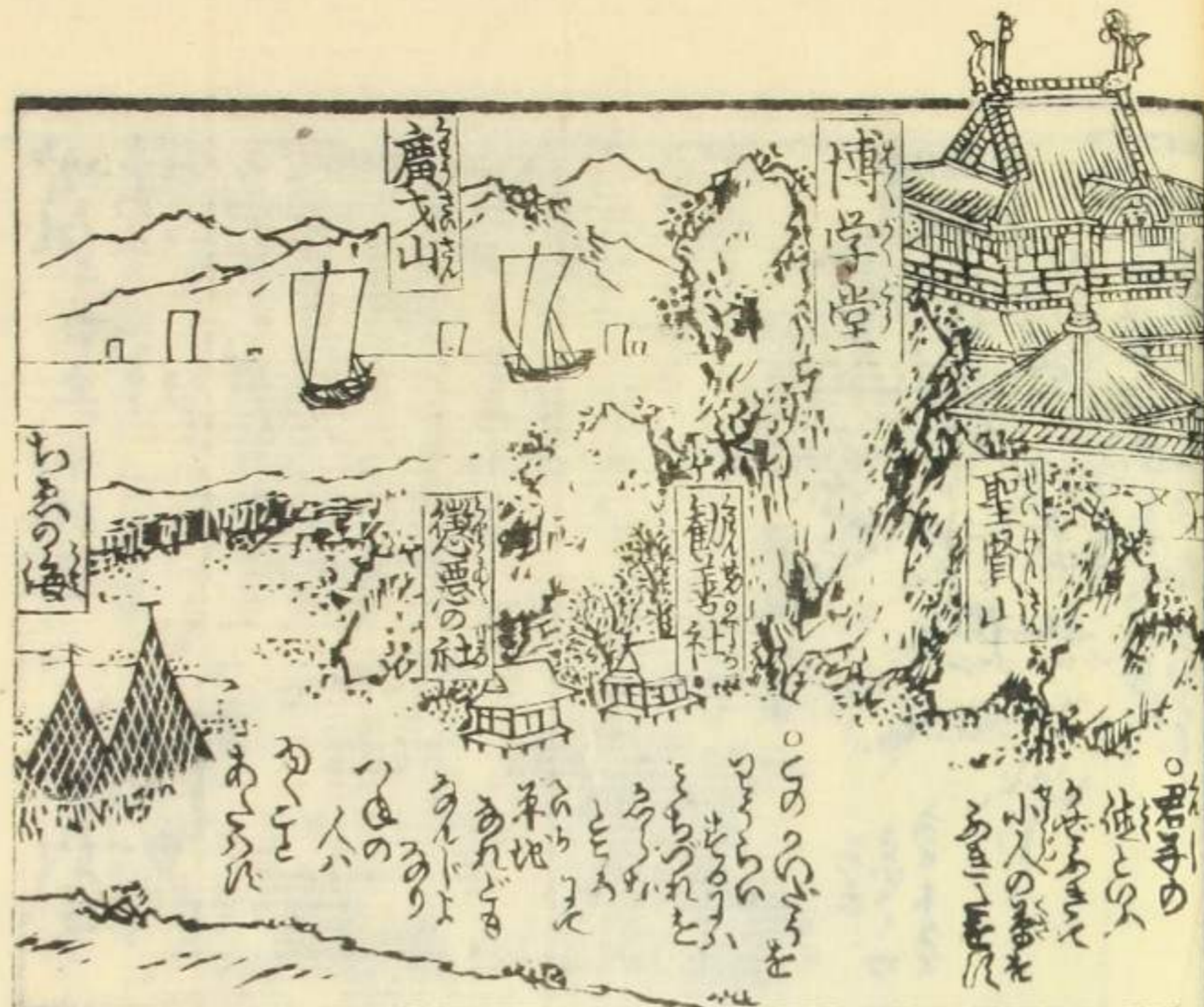
三ツの松

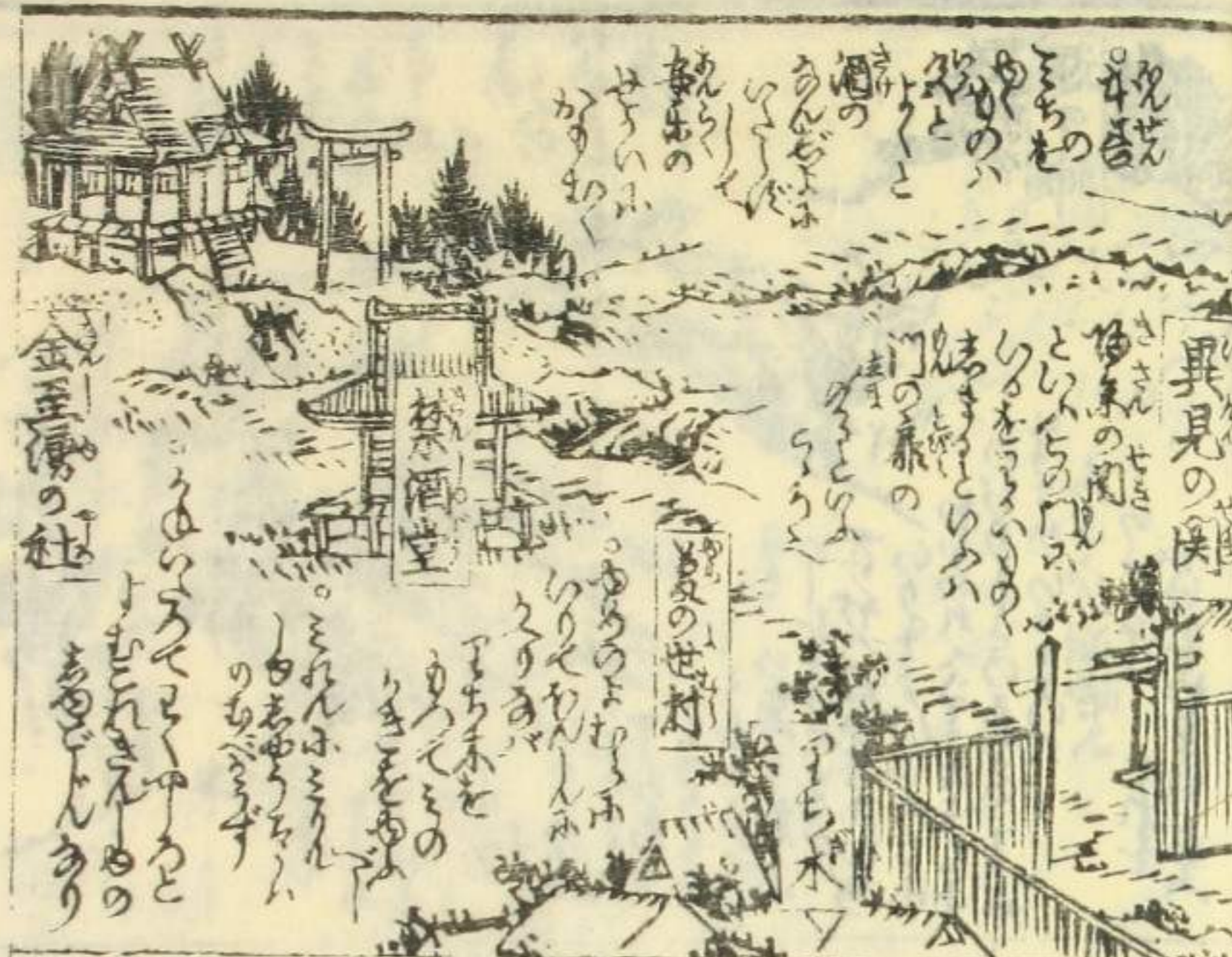
○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

三ツの松

○まろきものころり
すゑあり
つぎねあわれのまろきものころり
すゑあり

まろきものころり
すゑあり





金王湯の社

禁酒堂

異見の陣

異見の陣

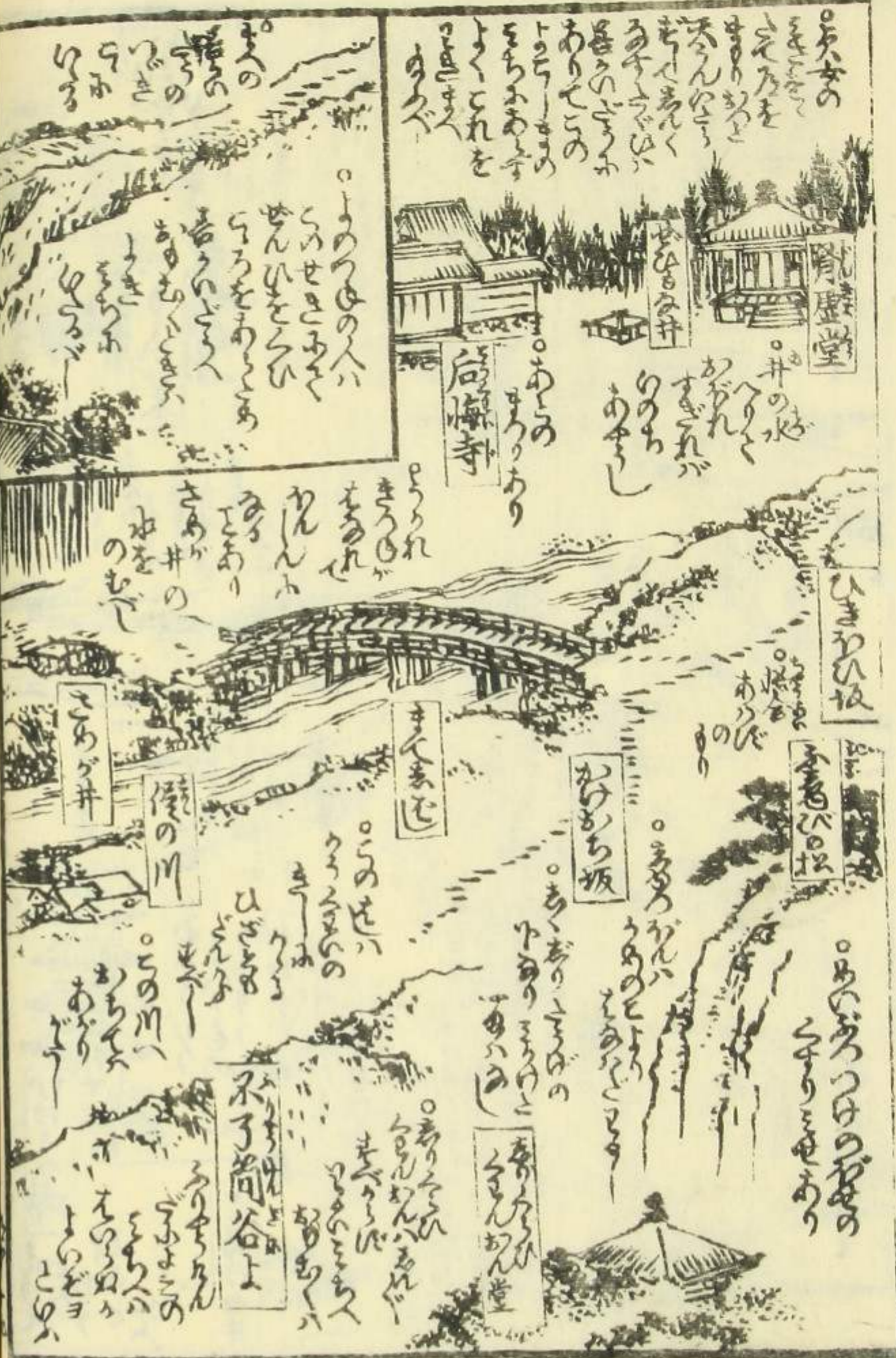


田里切通

異見の陣

馬の耳合佛堂

徳田の社



后海寺

ひまわり坂

あまの坂

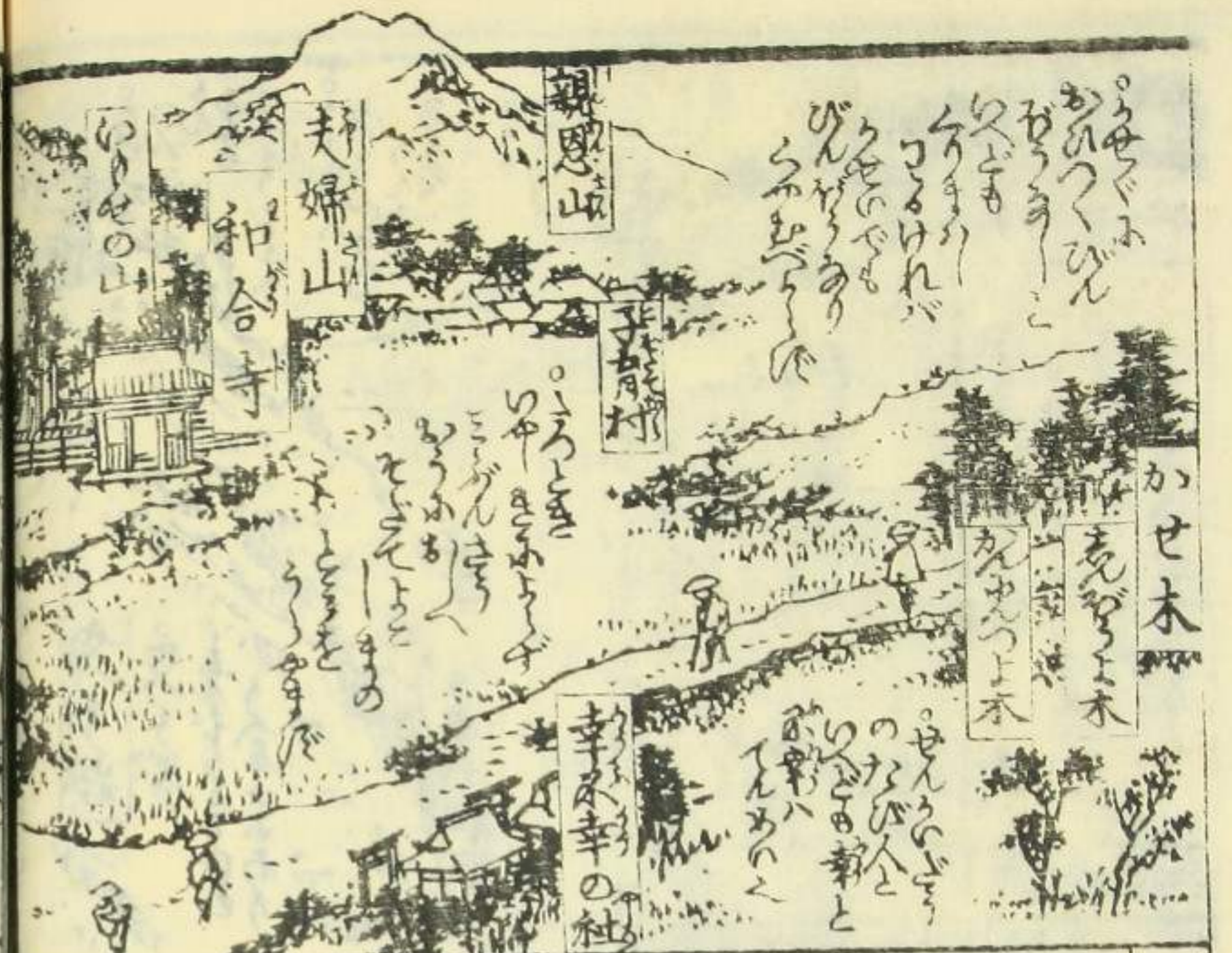
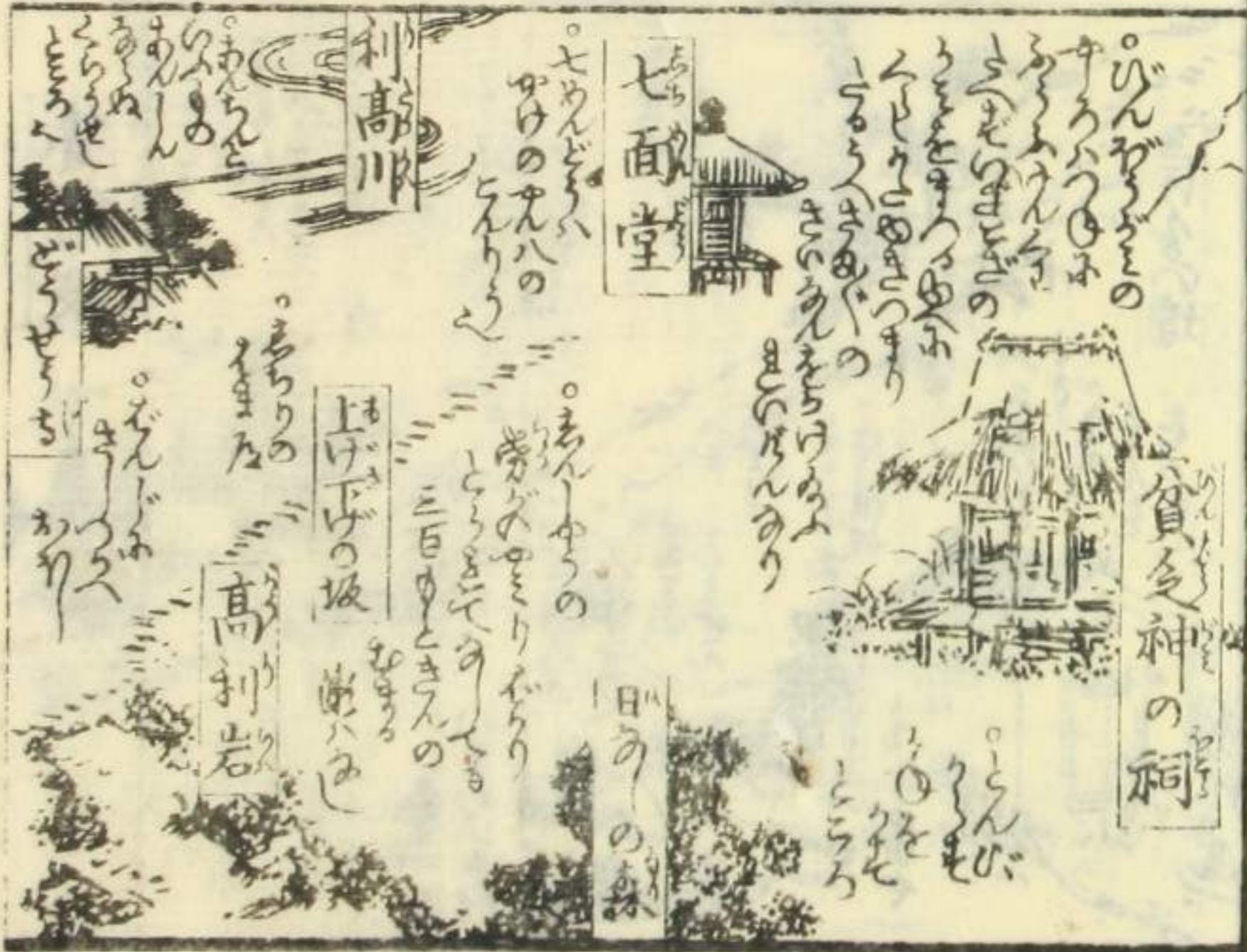
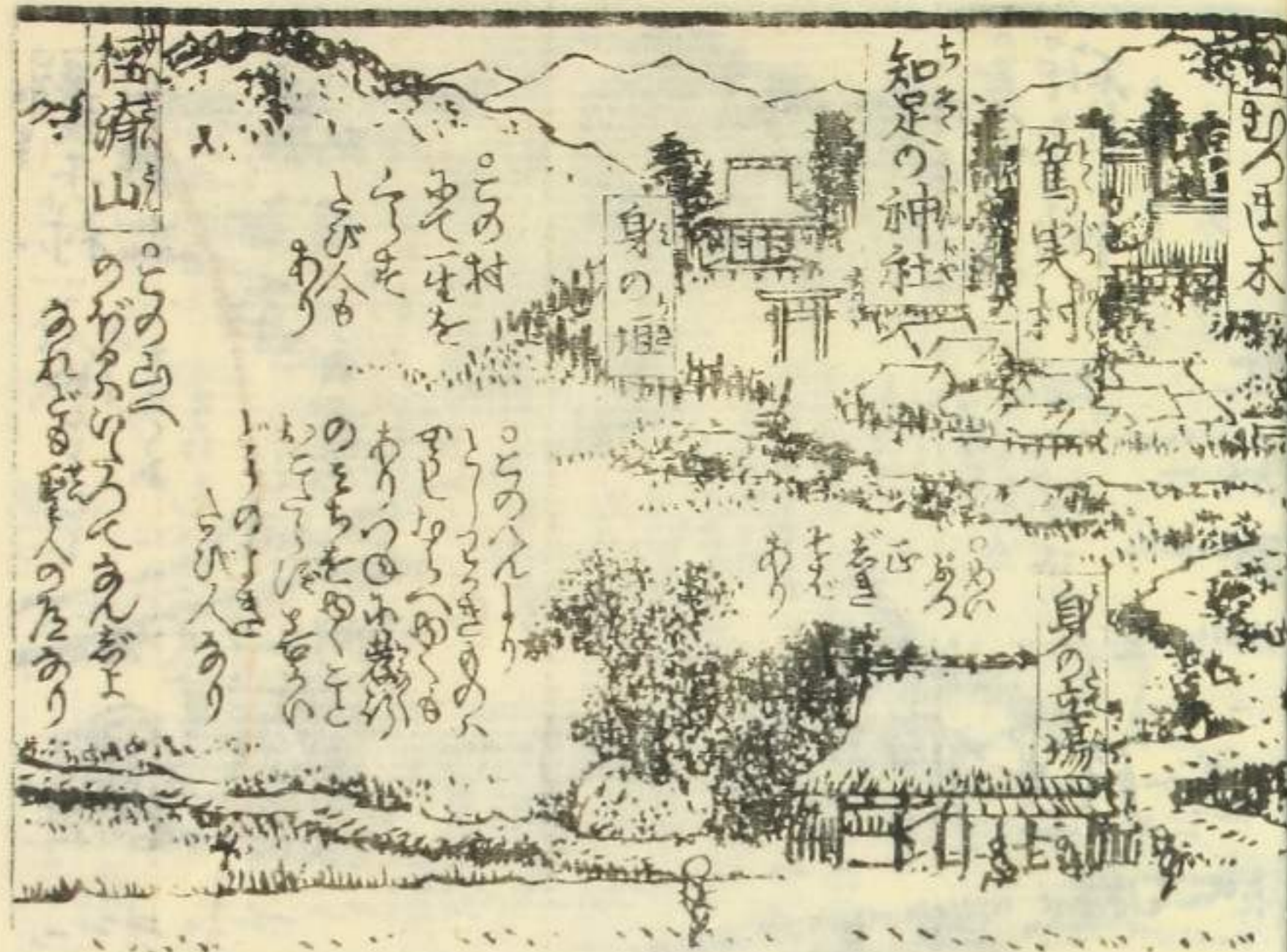
かひち坂

さあが井

信の川

不子筒谷上

あまの坂



怪麻山
この山は
ついでに
あれは
人のたまり

知足の神社
身の垣
身の垣
身の垣
身の垣

利高川
この川は
ついでに
あれは
人のたまり

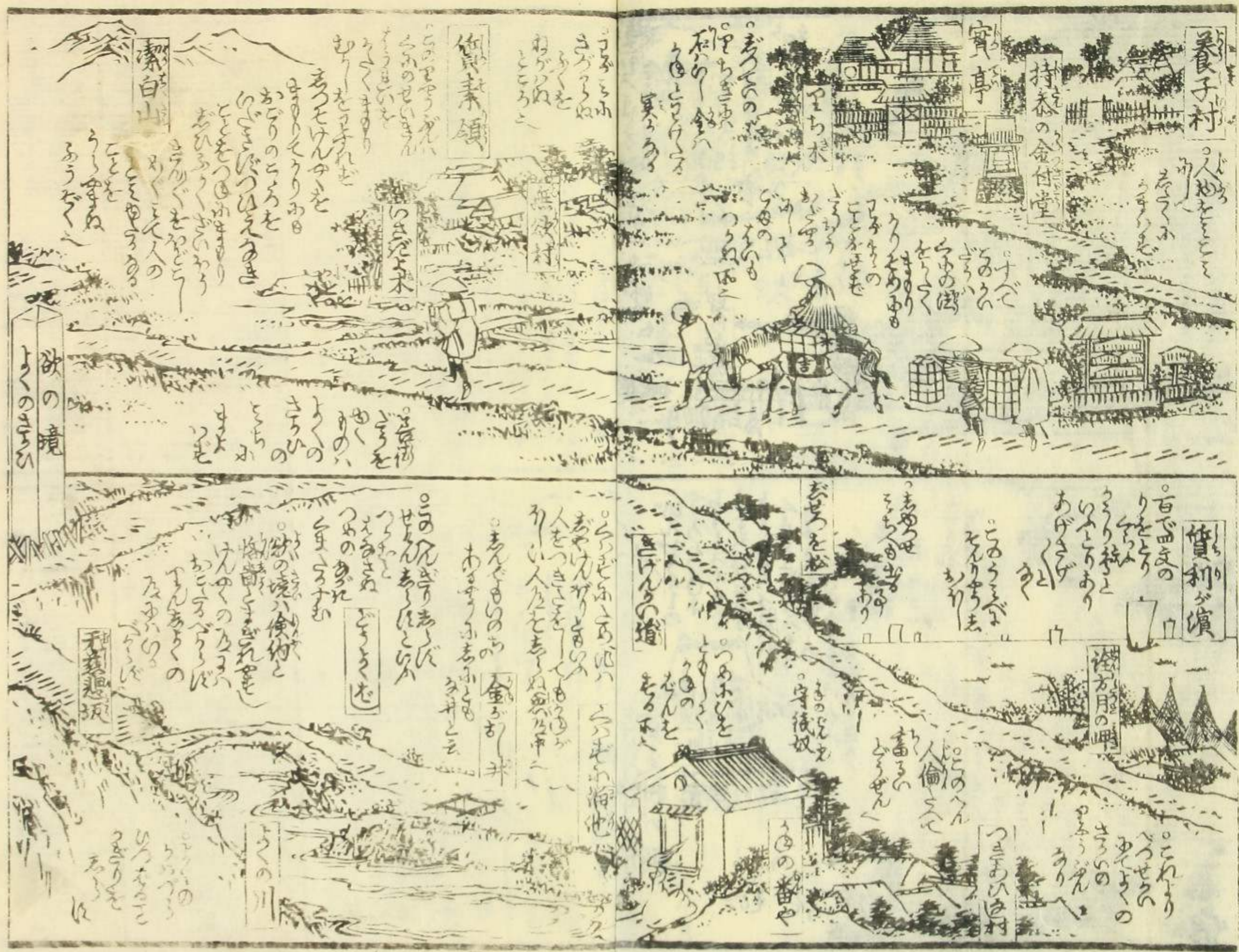
貧乏神の祠
七面堂
七面堂
七面堂
七面堂

和合寺
和合寺
和合寺
和合寺

幸楽の社
幸楽の社
幸楽の社
幸楽の社

酒狂山
酒狂山
酒狂山
酒狂山

五重の放蕩
五重の放蕩
五重の放蕩
五重の放蕩



養子村

持松の金付堂

寶亭

宝子村

佐賀素領

潔白山

飲の境

實利が濱

海方の町

きけんの道

金おけ井

千蔵廻坂

川の川

川の川

入船をきこむ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

百で田まの

りをとり

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

これより

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

さうりふ

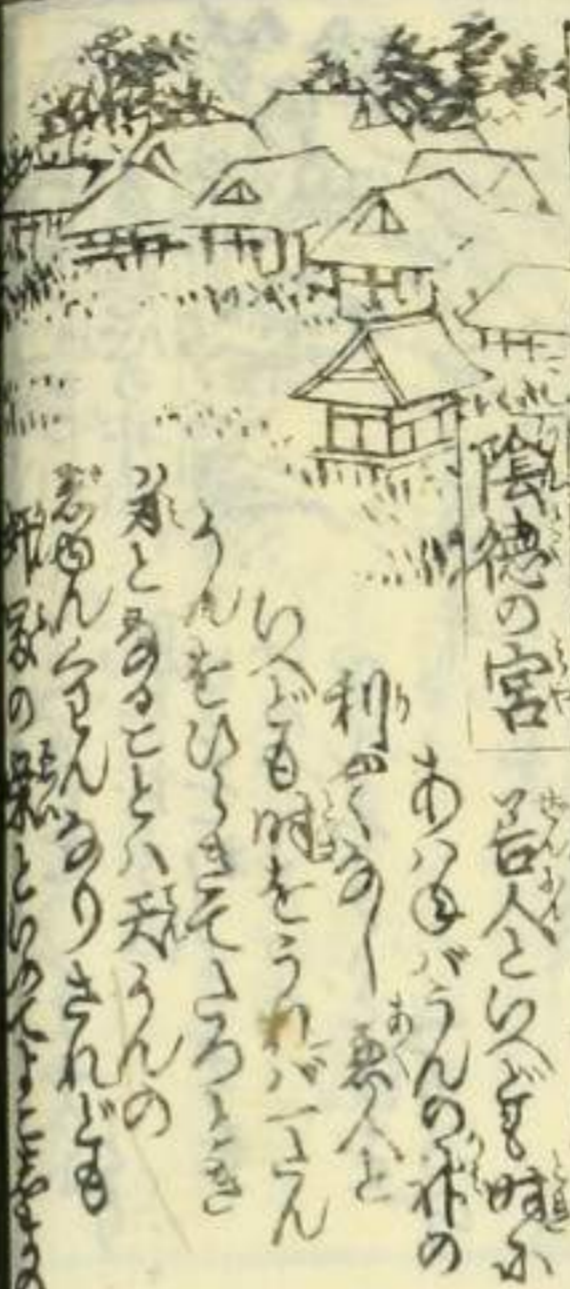
孝心塚

運の神



五常村

陰徳の宮



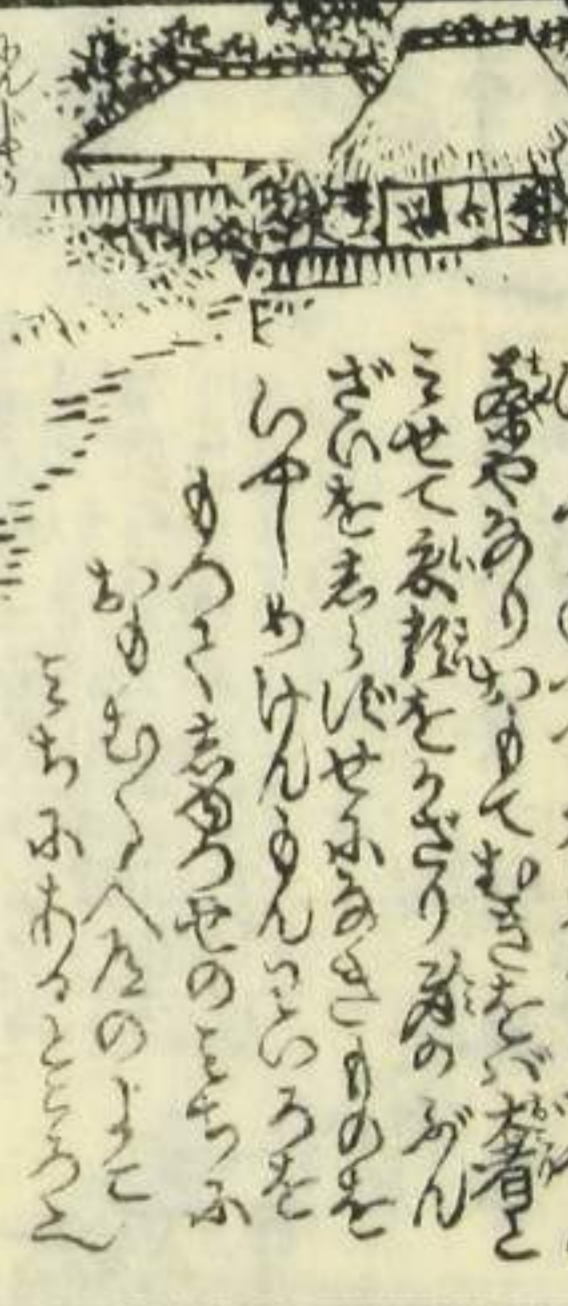
身の城郭



獨慎知の山

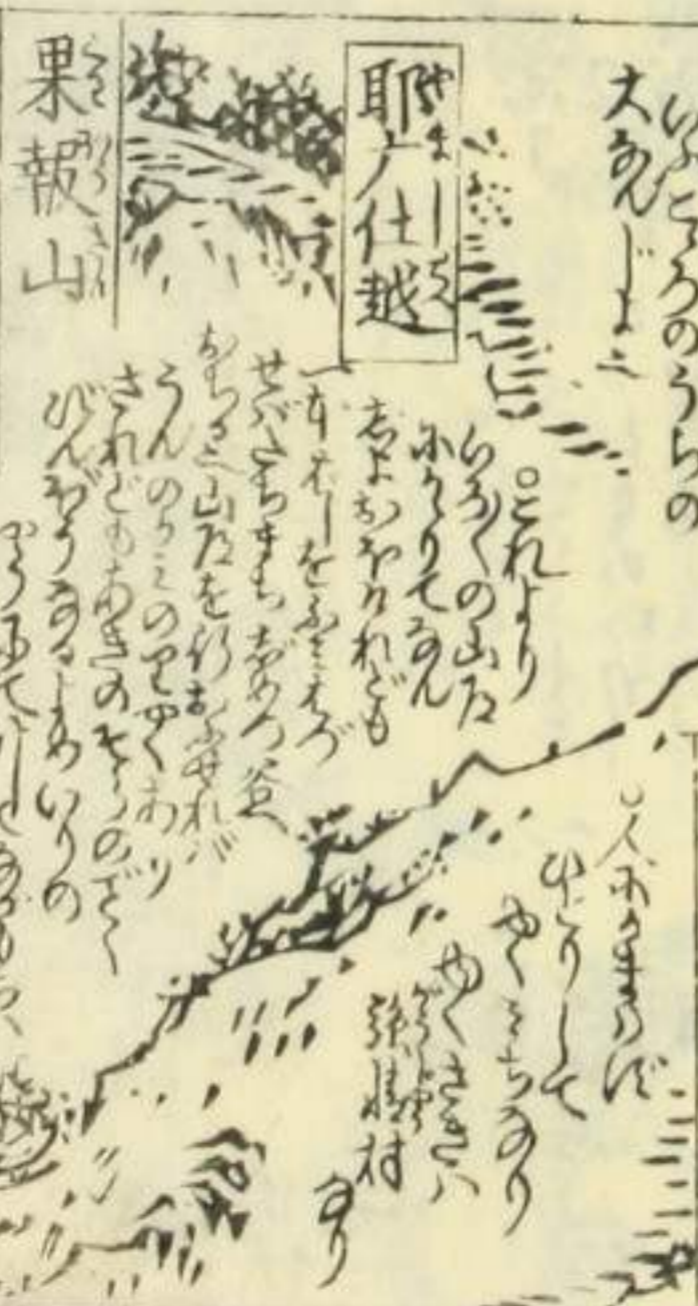


憎亭



あつていとしのふんあまのり
りてを道づつをさるは平座を
あまのりわくわくをさるは平座を
まておれをさるは平座を
さのをさるは平座を
り中あけんせんころを
りつあけんせんころを
あけんせんころを
あけんせんころを

横ぢろの乃



耶人仕越

あつていとしのふんあまのり
りてを道づつをさるは平座を
あまのりわくわくをさるは平座を
まておれをさるは平座を
さのをさるは平座を
り中あけんせんころを
りつあけんせんころを
あけんせんころを
あけんせんころを

果報山

あつていとしのふんあまのり
りてを道づつをさるは平座を
あまのりわくわくをさるは平座を
まておれをさるは平座を
さのをさるは平座を
り中あけんせんころを
りつあけんせんころを
あけんせんころを
あけんせんころを

仕合大明神

あつていとしのふんあまのり
りてを道づつをさるは平座を
あまのりわくわくをさるは平座を
まておれをさるは平座を
さのをさるは平座を
り中あけんせんころを
りつあけんせんころを
あけんせんころを
あけんせんころを

憊伴山

あつていとしのふんあまのり
りてを道づつをさるは平座を
あまのりわくわくをさるは平座を
まておれをさるは平座を
さのをさるは平座を
り中あけんせんころを
りつあけんせんころを
あけんせんころを
あけんせんころを



甲八洲越

苦の浦

樂の海

五十の塔

金のあま木

増長天王

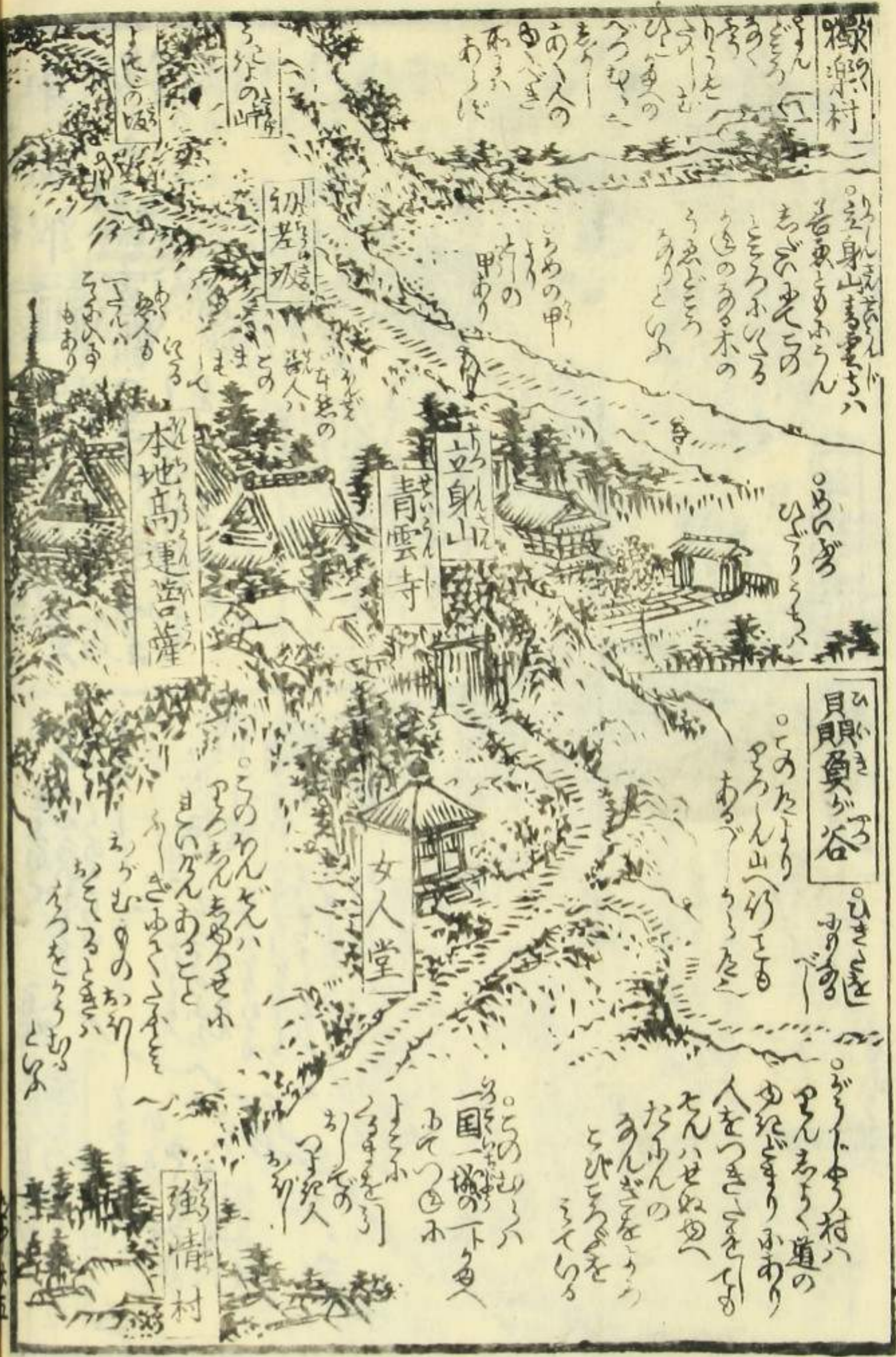
自りり谷

自りり谷

若をついて
救のこま
このほそ
あふ
あふ

おんちやの
けんや
あふ
あふ
あふ

自りり谷
増長天王
若を
あふ
あふ



嶽樂村

青雲寺

女人堂

本地高運菩薩

強情村

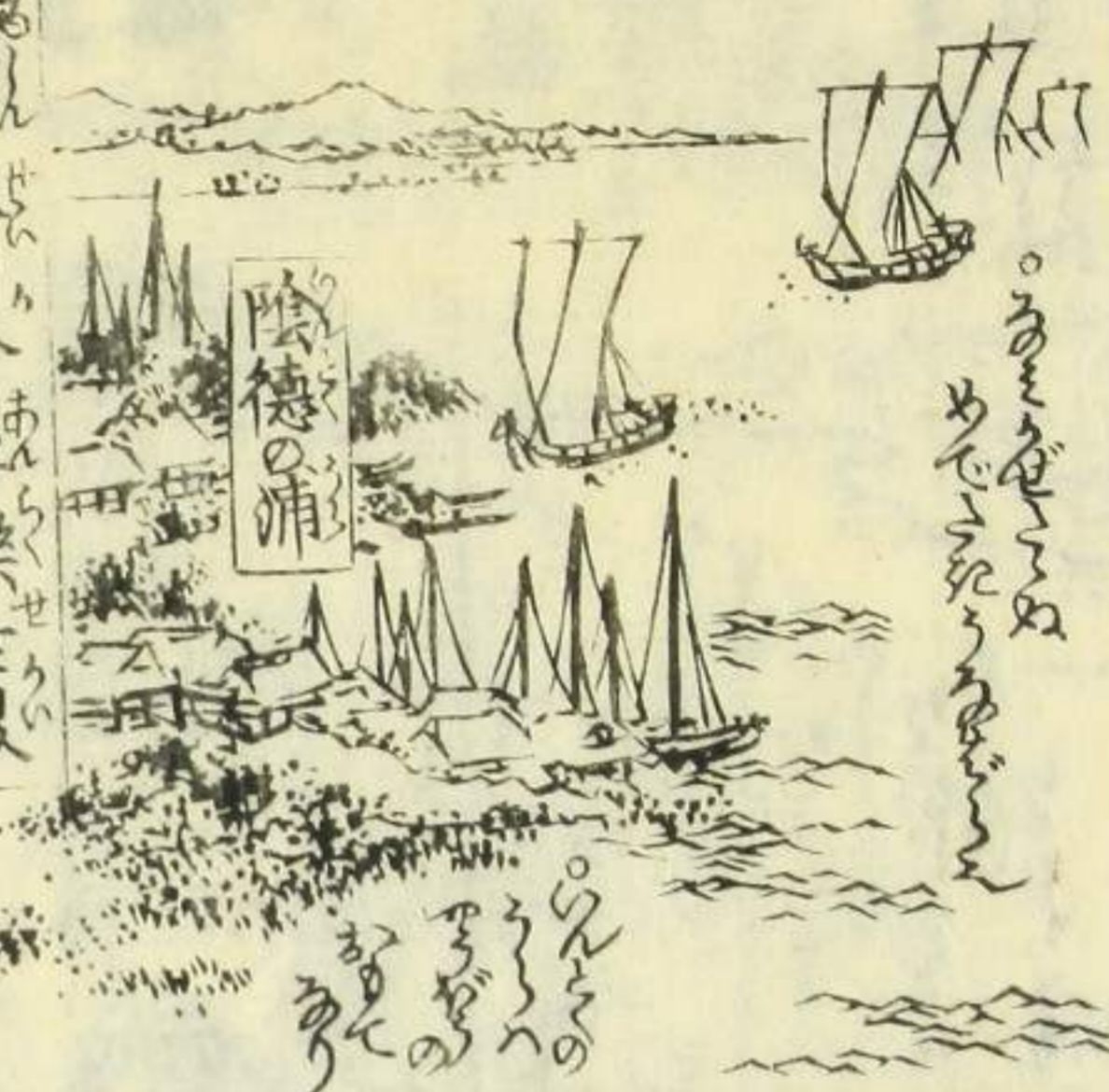
貝眼谷

あふ
あふ
あふ
あふ

あふ
あふ
あふ
あふ
あふ

あふ
あふ
あふ
あふ
あふ

○あまのついで
めてついでついで



陰徳の浦

脩身齊家の安樂世界

○このせういふいふ長久をそり深徳を
てををつとむる人々の世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世をそりこの世を

天の遣

○切あり名とげて分
ありそくはてんのと
いありこのまを
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を

めてついで



知命の樹

養老の宮

和合の社

○この山のあり
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を

那の

非道

大さきそん



因果應報の天罰

○うんハ知ありがのちなるあわれ
の世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を

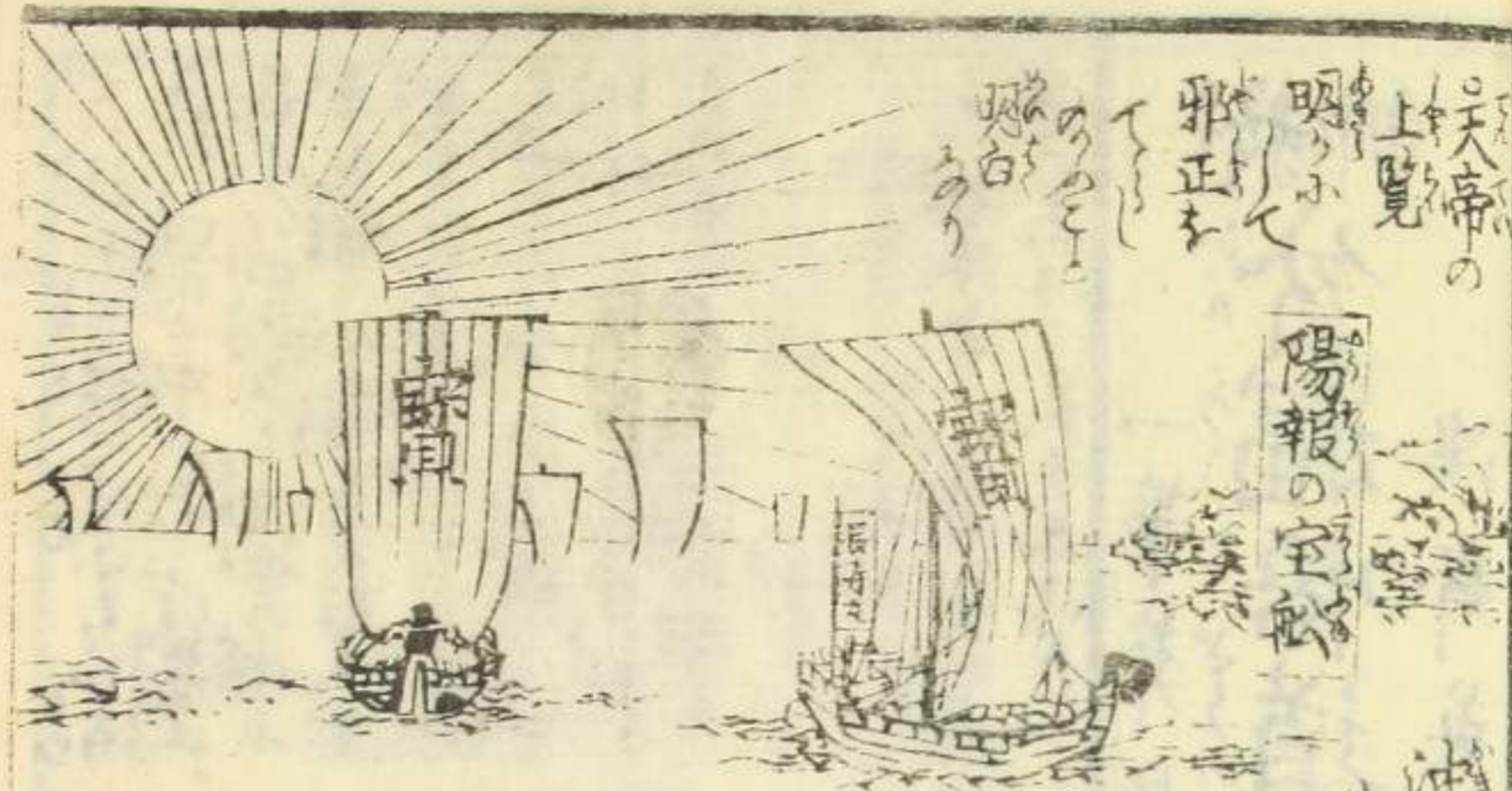
厄の

病人堂

左の



○あいのまを
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を
つとむる世をそりこの世を



天帝の
上覧
明く
邪正
てし
照る
あり

陽報の宝船

沖より宝船
あまの
子孫
鶴の舞
魚の遊
幾万
太平の儀
静る
餘慶の
目出
春を
め



見
驛者小長
親より
金銀を
つら
不
賤室あり
身を
孫
跡
天
志
あ

四果應報山



積善郡

餘慶

封録山

勝山



子宝町

積善の家少
餘慶の美小昔の
徳行方便の功徳
備壽の海無量の
次
か
積善の家少
餘慶の美小昔の
徳行方便の功徳
備壽の海無量の

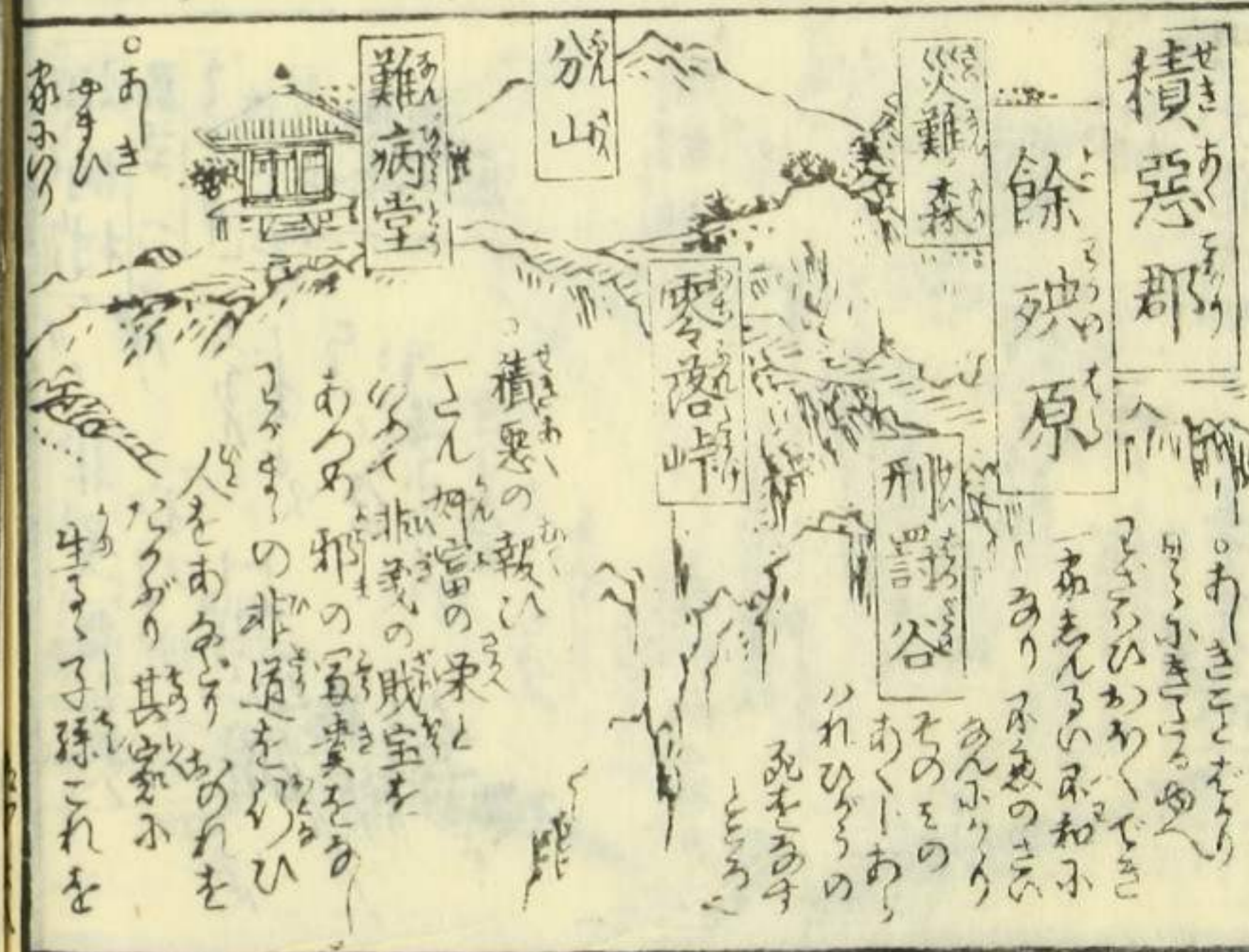


積悪郡

餘殃原

分山

難病堂



刑罰谷

積悪の報
一
あ
人
生

一筆芥戲作
 世を結ぶ
 代搾く
 小田の
 行房り
 英泉画



一筆芥主人戲作

古今
 秀句
 落しはか
 新刻
 繪入
 一冊

一筆芥戲作
 善惡道中記の二八八の
 男女の境を感ふものを教へ
 諭す小名所圖會小使の滑稽落
 を旨にしてかきしりたるきりあり

人間一生
 獨案内
 善惡道中記
 中本一冊

一筆芥戲作
 人間の一生と道中記
 ありて子竹流の教訓を
 本なき勸善懲惡とあり
 と存せし滑稽のいとの
 一冊あり

成田銚子
 鹿嶋香取
 道中獨案内
 袋入

下巻の四十一郡と教とて成田不勸系
 法てりいひゆり教者かまらざるいさ
 中巻の作法里教とていへる志はしなり
 たびよき巻の果あり

東都書肆
 頂恩堂
 本屋又助梓

早稲田大学図書館

011688995231